

デンソー山岳部 08年 冬山合宿報告書

山城 北八ヶ岳 硫黄岳～天狗岳
 日程 平成20年12月26日～29日（予備日1日）

メンバー

金子 清（CL） 山田 明（SL） 町田 修 竹内 幹雄 亀山 誠
 渡辺 勝利 津田 廣一 藤田 英昭



< 東天狗岳・西天狗岳を望む >

12/26日（金）曇り 19：30 刈谷 23：00 道の駅 小淵沢

明日からの好天と最高の山行を期待し、いざ出発。順調に車を飛ばし道の駅へ、前祝いで乾杯し就寝。

12/27（土）晴れ

8：50 本沢入り口（登山口） 10：00 ゲート 12：07 本沢温泉 14：08 夏沢峠

昨夜より道の駅駐車場で仮眠。早朝6時起床、出発準備をして車にて本沢入り口の登山口まで移動する。途中、稲子付近までくると道路には雪が見え始め運転も慎重になる。やがて本沢入り口の駐車場に到着した。積雪量が少ないこともありワカンは車に置いて出発する。雪を被った緩やかな夏道を進んでいくと1ピッチ程でゲートに到着した。晴れていることもあって少し汗ばんできたがここで休憩をしながら息を整える。ここから、まだまだ続く雪道をしっかりと踏みしめながら歩いていくと、所々凍って滑りやすくなっている場所がありそこを慎重に通り過ぎる。2ピッチ程で本沢温泉の小屋に到着した。ここでゆっ



くりと休憩しながら「もう少しで、今日のテン場に到着だな。」と思うと気持ちが楽になってきた。ここを出発するとすぐに左手に小さな露天風呂が見えてきた。この寒い時期ではとても風呂に浸かる気にはならないが、この時期を外せば風情があってもいいかも。温泉特有の硫黄の匂いがする中を夏沢峠にむかう。登山道はこれまでと違ってやや傾斜がきつくなるが、夏道がしっかりしているので歩きやすく14時過ぎにはテン場の夏沢峠に到着した。全員で肩を組んで雪を整地、平らにして、その上にテントを設営完了する。時間に余裕があれば硫黄岳に登る予定だったが今日は余裕がないと判断して行動はここで終了、テントの中に入り雑談をしながら食事の準備、寄せ鍋とレトルト丼の夕食を食べ山の話で盛り上がりながら

夜は更けていったが明日の行動を考え20時就寝となった。

（記 竹内）



12/28(日) 雲り後、時々晴れ

7:00 夏沢峠(テン場) 8:40 硫黄岳頂上 9:50 夏沢峠 11:00 発 11:50 箕冠山

12:20 根石岳手前のコル(強風の為、撤退) 12:50 箕冠山 13:30 夏沢峠 14:35 本沢温泉

昨夜はテントをたたく強風と寒さで寝つかれないまま、5時起床。カウどんで気力と体力を充電。さ~行くぞ!と、テントの外へ出るが、雪煙で何も見えない。昨日は、快晴だったのに~。気を取り直し、出発準備。まずは硫黄岳。荷をできるだけテント内に残し、アイゼンを装着、軽身で7時に出発。風が予想外に強い。鼻を覆うとメガネが曇る。渡辺先輩もメガネが曇って困っている。オーバーミトンをつけていても、指先が痛い。視界確保の為、鼻の覆いを外していると、「凍傷になりかけてるぞ!鼻を覆って」と金子リーダーから声がかかる。しかし、覆うとすぐにメガネが曇り、一面真っ白で何も見えない。エイヤ!と、メガネを外してリュックへしまった。この方が、まだ見える。強風と闘いながら、一步、一步と足を前に出す。ダウンにオーバーヤッケにオーバーズボン、着こめるものを全て着こんでいるのに汗もかかない。ハ~ハ~と言いつつも、ピッケルを杖替りに登っていく。アイゼンもサクサクッとしっかりと効いて快適だ。「もうすぐ頂上だよ」と、町田さん。傾斜が緩くなり、8時40分、硫黄岳山頂到着。全員と手袋をしたままでしっかりと握手を交わす。残念ながら、視界ゼロ。寒くて、早々に下山開始。「降りには慎重に!ゆっくりでいいから」と、リーダーから注意が飛んだ。転ばない様に気を引きしめて降る。1時間ぐらいでテン場へ戻る。テント



<硫黄岳山頂>

を撤収し、再び出発準備をし、11時に天狗を目指して出発。どうも、アイゼンの調子が悪い。グラグラする感じがした。町田さんからも「後ろが外れてる」とアドバイスがあり、つけ直す。先行者を追いかけて、ペースを

上げた。10分程度で追いつくも、ハ~ハ~と息も荒く、汗もすっかりかいてしまった。1時間弱歩き、風を避けて箕冠山手前の樹林帯の中で1本。箕冠山を過ぎ、晴れ間も出てきた。向かう天狗もよく見える。よし!行けるぞと思い、一気に降って、根石岳手前のコルへ降りきった地点から、ものすごい烈風。前へ進めない。硫黄岳の比ではない。亀さんと町田さんの二人が強引に進んでいくが、他のメンバーは風を避けてうっ伏したままだ。強引に突き進もうとするも、風を受けて前へ進めない。アイゼンで必死で踏ん張るも転ばされてしまった。しばし、頭も体も地に伏せて様子を窺うも、全く風が弱まらず、吹き荒れ狂っている様だ。ピッケルを握る指先が痛くな



<吹き荒れる根石のコル>

ってくる。このままじゃ!と、意を決し、タイミングを計って、さらに強引に突進しては風を避ける様に地に伏せる。これを繰り返す、必死に杭にしがみついても亀さんの所までやっとの思いで追いつくと、「撤退!」の一声。やっとの思いで強風のコルを戻り、強風域を抜け出した。振り返ると、「又、おいで...」と、天狗が晴れ間の中に姿を見せている。箕冠山まで戻って1本。行動食を口に、元気を取り戻す。1時半に夏沢峠、名残を惜しんで、ゆっくり休憩。さらに1時間登ってきた道を引き返す。強風に跳ね返された山行であったが、全員、満足した爽やかな顔であった。2時半頃に本沢温泉(テン場)へ到着。今回の山中での最後の晩餐と宴を楽しみ、快い眠りについた。

(記 津田)

12/29(月)快晴

6:30 本沢温泉 7:45 ゲート 8:30 本沢入り口(登山口) 9:00 稲子の湯 15:10 刈谷

4時半に起床し、本沢温泉から外の景色を見るとまだ暗かった。寒かった。その後、みんなで朝食を取り、本沢温泉を6時30分に出発した。天候は風も無く快晴だった(昨日が今日のような天候であれば良かったのに・・と思った!)。今日は2時間位歩く下山のみで冬山合宿もほとんど終りのようだった。下山途中の登山道が所々、凍結していた。自分が慣れていないので「アイゼン付けた方が良いのでは~?」とみんなに言うと亀山さんから「付けなくても大丈夫!」と言われた。みんなも要らないと言った。転ばないように慎重に前へ進んだ。しばらくすると登山道から登頂した硫黄岳の山頂が見えた。さらに、富士見平と言う場所に来ると遠くを見渡すと富士山が見えた。車の停めてある本沢入口に8時30分に到着した。

その後、稲子の湯で汗を流し、ゆっくり温泉に浸かって10時15分に出発、刈谷へ3時10分に着いた。今回、全員がケガや事故に遭わずに無事帰って来て良かった。(記 藤田)



<帰りの車窓から見える八ヶ岳>

所見

テント2張りで8人参加、更に本命の新人参加で言うことなし。合宿前の雪訓も大方のメンバーがキッチリこなして、計画的にも順調でずれのない冬合宿だった。冬の北八ヶ岳、入山前の気圧配置からして寒気による気温低下と風は強いだろうと予測した。硫黄岳の登りはまさしく予想どおりで、冬山初体験の藤田は冬の厳しさを十分に体験できたと思う。天狗岳に向かう途中の根石コルの風は特別であった。地形的にも西風の強いところだが、息もつかずにひたすら吹き続ける烈風には立ち向かえない。移動性高気圧におおわれた“風のない”春の日、四駆で林道の最奥までつめて天狗岳に藤田を誘おう。帰りの道すがら、東面から見えた八の冬景色や富士山・南アの北岳、甲斐駒、鳳凰三山・・などを山頂からゆっくり眺めて帰りは本沢温泉の野天風呂でのんびりしたいと思っている。(町田 修)

所見

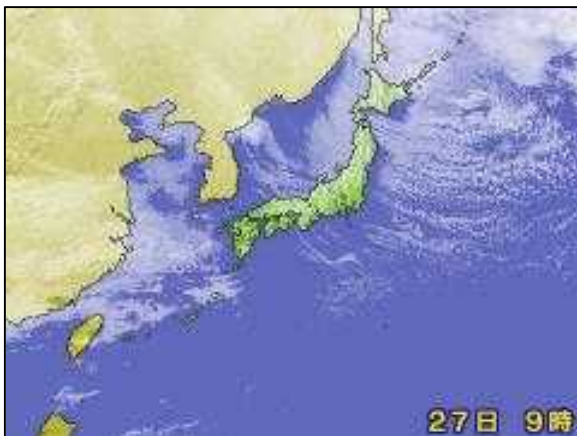
藤田英昭(新人)君の合宿参加もあり新人の育成とメンバーの親睦を図ることが出来た。今回は八ヶ岳の寒気に加え、強風下での登山となり根石岳コルで天狗岳の登頂は断念した。あらためて冬山の厳しさを体で感じた山行であった。そんな悪条件においても安全で余裕ある行動ができ、また、テント生活も楽しく過ごすことができ充実した合宿ができた。帰路、天気も良く野辺山付近からの望む八ヶ岳は絶景であった。

(金子 清)

【気象報告】

12 / 27 (土) 終日晴れ、夏沢峠 18時 : 気温 - 15

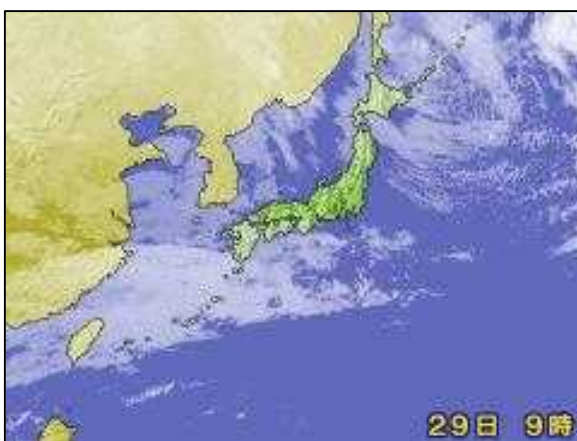
記: 亀山



12 / 28 (日) 8時頃硫黄岳 : 霧、西風強し、 12時頃根石岳南のコル : 晴れ、
気温 - 10度、西風強し (約40メートル) 進路を烈風に阻まれ引き返す、午後 : 晴れ



12 / 29 (月) 午前 : 快晴、風弱し、帰途、伊那地方へ来ると雲量がます。
神坂PA辺り (午後) では気温 8度



08年 冬山会計報告

項目	内容	金額(円)
収入	集金(10,000×8名)	80,000
	差し入れ おつまみ(不破さん) 酒(佐溝さん)	
	差し入れ 塚本さん、藤田(健)さん、江頭さん	9,000
	08忘年会残金	7,050
収入合計		96,050

支出	食料、ビール	17,332
	高速代(2台)	19,600
	ガソリン代・車維持費(2台)	22,100
	テント場代(8名)	4,800
	入浴代(8名)	4,800
	その他(交通費補助)	218
	返金 3,400×8名	27,200
支出合計		96,050

冬合宿のために皆様から差し入れを頂きありがとうございました。
この場を借りて御礼申し上げます。

(合宿メンバー 一同)